



Title: イベント盛り沢山でお待ちします

❖ 図書館イベント案内

図書館の催しのお知らせを。

7月15日(金)中央図書館児童コーナーでの、おはなしの森の皆さんによる「おひぎにだっこのおはなし会」は10時半から。7月20日(水)午後1時から中央図書館視聴覚室では、好評の「図書館でホットタイム」の第24回目。今回は「七夕寄席」と題して、おなじみ暁亭さんせきさんの落語をお送りします。

花矢図書館では、7月28日(木)10時30分からドリームライブラリー代表白根奎子さんによる「むか〜し、むかし 秋田の話っこ」です。いずれも参加無料。どなたでもお気軽にどうぞ。

7月15日から中央図書館では「第47回大館市読書感想文コンクール」の募集を開始します。締め切りは9月14日(水)です。特に一般の方、振るってのご応募をお待ちしております。

また、8月18日(木)の午前10時から12時まで中央図書館児童コーナーにおいて、小学生を対象とした「紙でオリジナル図書館バッグをつくろう!+ミニおはなし会」が開催されます。定員12名(保護者は人数に含めません)で、ただいま募集中です。詳しくは中央図書館(☎42・2525)まで。

❖ ソンなのかゾンなのか

皆さんは「共存」をどう読みますか。私はこの言葉を知って以来「きょうぞん」と読んできました。たいがいそうですね。ところが、しばらく前NHKのラジオを聴いていたら、アナウンサーが「きょうそん」と言うではありませんか。近頃はNHKといえども読み間違いを耳にする機会が増えている気がするので(個人の感想です)、しょうがないなあと思いつつ、念のために辞書を引いてみました。

そうしたら、なんと、広辞苑(昭和58年の古い第三版ですが)では、見出し語が「きょうそん」になっているではありませんか。あわてて他も当たると、言泉(61年)は「きょうぞん」が見出しでした。どちらも、もうひとつの読み方もありだと書いていますが。なんなの、これは。

ということで、存の字を漢和辞典で少し調べてみました。まず、「ソン」と発音するのは漢音、「ゾン」は呉音です。

中国語の発音は時代や地域によってかなりの違いがあります。はじめて漢字が日本に入ってきた5・6世紀の、主に中国南部(呉地方)方面の読み方が呉音です。その後遣唐使が派遣されていた頃、奈良時代から平安初期にかけて都の長安で話されていた言葉を輸入したのが漢音、さらに下って鎌倉・室町時代に禅宗と共に入ってきたのが唐音です。漢字というくらいですから、正統的に使われてきたのは漢音ということになります。例を挙げると、京という字の読みは「キャウ(きょう)」が呉音、「ケイ」が漢音、「キン」が唐音です。京都、京阪神、北京といずれも普通に読んでいますね。このくらい違うといいんですが、存の場合、つまりソンとゾンでは、濁点のついたほうが田舎者の読み方みたいに思えてくるのが難です。

国語辞典もいろいろありますが、ある言葉の歴史的な推移を知るには、大辞典で古

い用法から順に記されたものがお薦めです。中央図書館の参考図書室には、中央図書館後援会より寄贈していただいた『日本国語大辞典第二版(全14巻)』(小学館 2000~02年)があります。興味のある方は調べてみてください、初出を丹念に拾っていて面白いですよ。

それでは共存の読みについて当のNHKさんはどうお考えなのか。NHK放送文化研究所のホームページで豊富な事例を知ることができます。Q&Aに「依存の読みをイゾンに変更」という項目がありました。それによると、イゾンが伝統的な読み方で、NHKも元はイゾンとのみ読んでいましたが、昭和58年からイゾンも認めるようになりました。そして平成22年にNHKが行った調査では、イゾンと読む人が92%、イソンは6%という結果に。これを受け、平成26年の放送用語委員会において、放送で優先させる読みをイゾンに変更したとあります。ほかにもソンが正しいとされていた共存、現存、残存などはゾンを優先させ、既存についてはソンとゾンのどちらも同等に認めることにしたのです。

つまり、キョウソンと読んだあのアナウンサーは、現在の少数派ではあっても間違っていたわけではなかったのです。長年正しいと信じて使ってきた言い方を今更変えるなどできないという信念の人だったのか、あるいは濁音のない方を好ましく感じる審美の人だったのか。それとも単に変えるのが面倒だったのか。若い頃覚えた言い回しはなかなか変えられるものではありませんしね。そういう人がいることに言葉の豊かさを感じるということで、異存(これは元々イゾン)はございませんでしょうか。(陽)